

第9章 危機管理

氷上・陸上におけるオフィシャルの
危機管理の重要性を理解する

本章では、以下の項目を学習する：

- 危機管理とは何か
- 危機管理者としてのオフィシャルの役割
- 危険性を見極めと抑制

$e^{i\pi/2} = i$

$e^{i\pi/2} = i$

< 概要 >

本章の目的は、危機管理の原則を理解し、危機管理プログラムを効果的に実施するための知識を習得することである。氷上・陸上での事故やケガを未然に防ぐため、オフィシャル全員が積極的に一丸となって安全対策に取り組み、最大限の努力をできるようにすることを最終的な目標としている。その一方で、万一深刻なケガや事故が起きてしまった場合に備えておくことも重要である。

< 危機管理の導入 >

- どこでも、いつでも、誰にでも、事故は起こり得る。
- アイスホッケーのように身体的接触を伴うスポーツでは、事故の危険が高くなる。
- 身体的接触を伴う場合、重傷を負う可能性があり、ケガをした本人やその家族にも多大な苦痛をもたらすことがある（脊柱のケガなど突然の大ケガ）。
- 大きなケガは訴訟に発展し、個人や団体が過失を問われることもある。
- 危機管理は、活動中の危険性を排除または抑制するために積極的な対策をとることをいう。これによって事故やケガの未然防止を助けることができる。

< 危機管理の原則 >

[危機管理とは何か]

- 定義：危機管理とは、組織の活動に起因する身体的損傷または金銭的損害を見極め、査定し、管理し、排除または抑制する過程をいう。
- IIHFにとっての危機管理とは、国内連盟、リーグまたはチームが、ホッケー事業を運営する中で直面する日々の危険性を見極め、理解し、排除または抑制するために、それぞれの活動やプログラム、運営手順（建物とスタッフを含む）を見直す過程をいう。
- 危機管理は、基本的な4つの段階から成る：
 - 第1段階：活動に関連する危険性を明確にする（試合、更衣室、駐車場、移動計画、試合後など）。
 - 第2段階：氷上・陸上の危険性の大きさを査定する。
 - 第3段階：明確にした危険性を排除または抑制する。
 - 第4段階：避けられない危険への保護として保険に入る。

〔第一の防御手段〕

- 最初の3つの段階を効果的に実施しなければならない。また、避けられない危険への保障として、保険その他の財源を別途確保しておくが良い。管理できない危険から生じる訴訟にかかる経費は含まない。氷上・陸上で常に安全を最優先するため、積極的な予防策を講じなければならない。

注：危機管理は第一の防御手段である。保険は、危機管理のすべての努力が失敗に終わった場合の最後の手段である。

〔安全にはチームワークが必要：一人一人が役割を担っている〕

- 第2段階（危険性の大きさを査定する）と第4段階（保険の加入）には特別の訓練と専門知識が必要であるのに対して、第1段階と第3段階（避けられない危険を明確にし、抑制または排除する）では当事者全員がそれぞれの役割を果たさなければならない。世界中でホッケーに携わる者一人一人が、危機管理チームの一員である。危機管理チームで、あなたはどの役割を担っているだろうか？

- | | |
|---------------------------------|----------------|
| ⇒選手 | ⇒氷上役員 |
| ⇒コーチ | ⇒競技役員 |
| ⇒運営者 | ⇒観客 |
| ⇒父兄 | ⇒アリーナ管理者および従業員 |
| ⇒その他ボランティア（マネージャー、トレーナー、成績集計など） | |

- 危機管理は一度限りではなく、継続して行うものである。
- 最善策は常識を用いることである。ホッケー関連の活動に伴うすべての危険性に注意すること。不確かな場合は、注意するに越したことはない。

<安全にはチームワークが必要：あなたの役割は？>

○試合前，試合中および試合後の危険性を明確にし，抑制または排除する。危機管理は継続して行うものであり，氷上に限られるものではない。起こり得る危険性のリストを必ず備えていなければならない。オフィシャルは以下の主な危険性を考慮すべきである：

- ⇒危機管理とその意識についてクリニックで討議する
- ⇒道路と天候の状態と安全運転
- ⇒試合会場への適切な到着時間
- ⇒賠償責任保険の担保範囲
- ⇒健康状態
- ⇒疲労
- ⇒精神的準備
- ⇒試合前のウォームアップとストレッチング
- ⇒オフィシャルのセキュリティ（安全確保）
- ⇒オフィシャルのための応急処置／トレーナーの有無
- ⇒アリーナのレイアウト：更衣室，選手，観客，出入り口，空調など
- ⇒アリーナの状態：ボード，照明，保護ガラス
- ⇒特別な疾病への注意
- ⇒アルコールを摂取しない
- ⇒試合後の食事－栄養摂取
- ⇒防具：ケガ防止と危険性の低下
- ⇒ケガの適切な処置とリハビリテーション
- ⇒体力テスト前の健康診断

[氷上の安全]

- ⇒アリーナの状態：氷（溝，こぶ，破片），ボード，プレイヤーズベンチ，ペナルティベンチなど（必要な場合は，これらの項目をリンク・マネージャーに確認させる）。
- ⇒アリーナのセキュリティの手順
- ⇒アルコールと観客の管理
- ⇒重要な I I H F 規則（チェックング・フロム・ビハインドなど）と全体的な規則
- ⇒必要なコールをする

- ⇒流血を伴うケガ－H I V，肝炎の予防
- ⇒トレーナーとの協力関係の維持
- ⇒防具に関する規則の徹底（ベンチ内でのヘルメットの着用，氷上でのバイザーの着用など）。
- ⇒オフィシャルの防具（バイザーなど）
- ⇒水分補給
- ⇒緊急時の対策（E A P）
- ⇒ケガをした選手への注意
- ⇒氷上での注意：選手とオフィシャルの危険地域
- ⇒外履きの靴を履いている人への注意

[試合後の安全]

- ⇒アルコールを摂取しない
- ⇒天候と道路の状態
- ⇒移動：疲労が注意力に影響する
- ⇒試合後のセキュリティ
- ⇒試合後のクールダウンストレッチ
- ⇒水分補給
- ⇒建物からの退出
- ⇒試合後の食事と適切な栄養摂取
- ⇒危険な状況について，然るべく人物への書類の提出
- ⇒ケガの査定，処置とリハビリテーション
- ⇒防具のメンテナンス

[フェアプレーと敬意]

- 試合を当事者全員にとって安全なものにするためには，他人に敬意を払い，自分自身がそうされたいと思う方法で相手に接することが重要である。I I H Fスポーツ強化プログラムは，以下に示す「フェアプレー規程」を重視している。

[オフィシャルのフェアプレー規程]

- ⇒選手全員が規則の範囲内で能力を最大限に発揮する機会を持てるようにする。
- ⇒選手の安全を脅かすあらゆる状況を防ぎ、排除する。
- ⇒競技に適した健全な環境を維持する。
- ⇒選手を威嚇するいかなる言動も許さない。自分自身や他のオフィシャル、選手、観客に対する、不当な行為を許さない。
- ⇒反則をコールする際は、チームまたは選手個々に対する個人的な感情に関わらず、一貫性と客観性を保つ。
- ⇒断固として、また威厳を持ってあらゆる論争に対処する。
- ⇒特に若い選手に対する指導者として、またフェアプレーの手本としての役割を担う。
- ⇒試合の前後に選手に接し、話をする。
- ⇒建設的な批判を受け入れ、視点の違いを考慮し尊重する。
- ⇒レフェリング技術をさらに向上させるため、適切なトレーニングを受ける。
- ⇒試合の利益のため、コーチたちと協力し合って仕事をする。

[選手のフェアプレー規程]

- ⇒他人やコーチが求めるからではなく、自分自身が望んでホッケーをする。
- ⇒ホッケーの規則に則り、フェアプレー精神をもってプレーする。
- ⇒自分自身の感情を抑え、乱闘や暴言が全員の行為を無にすることを忘れない。
- ⇒相手に敬意を払う。
- ⇒真のチームプレイヤーとなるべく最善を尽くす。
- ⇒勝つことがすべてではない。楽しみ、技術を磨き、友達をつくり、最善を尽くすことが重要である。
- ⇒敵味方を問わず、良いプレーを認める。
- ⇒コーチとオフィシャルが自分を助けるためにいることを忘れない。彼らの決定を受け入れ、尊重する。

[コーチのフェアプレー規程]

- ⇒選手にはホッケーの他にも関心や義務があることを念頭に置いて、試合や練習のスケジュールを組む。
- ⇒フェアなプレーをし、規則を守り、オフィシャルと相手を尊重するよう選手に指導する。
- ⇒選手全員に均等に、指導や支援、プレーする時間を与えられるようにする。
- ⇒ミスをしたり、下手なプレーをした選手をひやかしたり、罵ったりしない。選手は楽しむためにプレーしていること、および選手たちに自信を持たせなければならないことを忘れない。
- ⇒用具と施設が安全な状態にあること、およびそれらが選手の年齢と能力に合っていることを確認する。
- ⇒選手には尊敬できるコーチが必要であることを忘れない。惜しみなく選手を褒め、手本を示す。
- ⇒コーチング技術をさらに向上させるため、適切なトレーニングを受ける。
- ⇒試合の利益のため、オフィシャルと協力し合って仕事をする。

[親のフェアプレー規程]

- ⇒自分の子供にホッケーをすることを強要しない。
- ⇒子供は、親ではなく子供自身が楽しむためにホッケーをしていることを忘れない。
- ⇒規則に従い、敵対行為や暴力にたよらずに問題を解決するよう子供を指導する。
- ⇒子供が試合に負けても落ち込まないように、勝つことより最善を尽くすことが重要であることを教える。
- ⇒フェアに戦い努力したことを褒め、常に子供に勝者の気持ちを持たせる。
- ⇒子供がミスをしたり試合に負けたことを冷やかしたり罵ったりしない。
- ⇒子供は手本を見て学んでいること忘れない。敵味方を問わず、良いプレーを褒める。
- ⇒公衆の面前でオフィシャルの判定に異議を唱えない。
- ⇒子供の試合から粗暴な言動をなくすためのあらゆる努力を支援する。
- ⇒子供にホッケーを教えるために時間を費やしているボランティアのコーチに敬意と感謝の意を表す。

[観客のフェアプレー規程]

- ⇒選手がホッケーをするのは選手自身の楽しみのためであって、観客を喜ばせるためではないことを忘れない。
- ⇒非現実的な期待をしない。選手はプロではなく、プロの基準で判断してはいけないことを忘れない。
- ⇒オフィシャルの決定を尊重し、選手たちにもそうあることを期待する。
- ⇒試合中にミスをした選手を冷やかさない。選手に努力を促しやる気を出させるため、肯定的な意見を述べる。
- ⇒いかなる形の暴力も批難し、コーチおよびリーグ役員に対して適切な方法で反対意見を伝える。
- ⇒相手チームなしには試合は成り立たないのだから、相手にも敬意を表する。
- ⇒選手、コーチ、オフィシャルまたは他の観客に暴言を吐いたり、いやがらせをしたりしない。

[リーグ役員のフェアプレー規程]

- ⇒性別、能力、人種的背景に関わらず、選手全員に公平に機会を与えられるよう努力する。
- ⇒いかなるスポーツ・プログラムにおいても、観客を楽しませることを最優先しない。
- ⇒用具と施設が安全な状態にあること、およびそれらが選手の年齢と能力に合っていることを確認する。
- ⇒プログラムの作成、規則の施行およびスケジュール作成の際、選手の年齢とレベルが必ず考慮されるようにする。
- ⇒プレーすること自体に意味があり、勝つことがすべてではない。
- ⇒観客、コーチ、選手、オフィシャル、父兄および報道関係者にフェアプレー規程を配布する。
- ⇒コーチとオフィシャルにフェアプレーを促進すると同時に技術を向上させる能力を持たせる。

〔防具〕

○ 防具は選手だけでなくオフィシャルにとっても不可欠なものである。以下のことに留意することが重要である：

- ⇒ 体に合っている
- ⇒ 保護力がある
- ⇒ 手入れをする

○ オフィシャルの防具には以下のものがある：

- ⇒ ジョック・ストラップ（運動用サポーター）
- ⇒ ジル・ストラップ（女性）またはペルビック・プロテクター
- ⇒ すね／ひざ当て
- ⇒ 保護ガードル
- ⇒ ひじ当て
- ⇒ ヘルメットとバイザー
- ⇒ スケート

〔ケガ予防〕

○ ケガの予防は危機管理において非常に重要な要素である。ケガは3つの方法で起きる：

- ⇒ 自ら招いたケガ
- ⇒ 他人を原因とするケガ
- ⇒ 環境を原因とするケガ

○ ケガを予防するためには以下のことが必要である：

- ⇒ コンディショニング（体調管理）
- ⇒ 技術を身につけ、規則を守る
- ⇒ ルールを厳密に適用する
- ⇒ 定期的な用具チェック
- ⇒ 軽傷を放置しない
- ⇒ 氷上での注意力
- ⇒ リンク外での注意力
- ⇒ ケガの適切な処置とリハビリテーション
- ⇒ ケガの後のコンディショニング
- ⇒ レフェリングへの段階的な復帰
- ⇒ 試合前・試合後のストレッチングの習慣づけ
- ⇒ 休息期間と水分補給

〔緊急時の計画と応急処置〕

- オフィシャルは、危険を見極め排除または抑制することによって、ケガや事故が起こらないようあらゆる努力をしなければならない。しかしながら、ケガや事故が起こってしまった場合に備えて、オフィシャルは自分の役割を把握しておくべきである。
- どのチームも緊急時の活動計画を備えておくべきである。オフィシャルは応急処置の訓練を受けていないので、緊急時の責任者（チームドクター、トレーナー、コーチなど）の指示に従って補助的な仕事のみをすること。
- 国内連盟の認定の一環として、オフィシャル全員が応急処置の講習を受けることが勧告されている。
- 選手がケガをしていることがわかったらオフィシャルは規則に従ってプレーを中断し、必要に応じてトレーナーまたはベンチの担当者に氷上に入るよう合図する。トレーナーは補助を求めたり、必要に応じて緊急時の活動計画を定めることができる。
- オフィシャルは要請に応じてサポートできるよう待機しているべきである（アリーナの係員が氷上に担架を運ぶのを手伝う、観客の管理、救護員の通路の確保など）。
- オフィシャルがトレーナーまたはリーダーの役割を把握できるよう、緊急時の活動計画の例を12ページに掲載した。

〔H I Vとホッケー〕

父兄、コーチ、トレーナー、選手またはオフィシャルとしての立場で、私たちはエイズとH I Vに対する懸念を持っている。カナダ・スポーツ医学学会（C A S M）は、この病気とウイルス、感染およびスポーツとの関係について、明確な声明を出している。以下はその要約である。

- H I V（ヒト免疫不全ウイルス）はエイズ（後天性免疫不全症候群）の病原である。H I Vは感染し人体の免疫システムを著しく損傷する。免疫システムに保護がなければ人は致命的な感染症を負いガンになってしまう。症状が出ていなくても感染していることがある。
- B型肝炎（H B V）やC型肝炎（H C V）もウイルスの感染によるものである。肝炎ウイルスは肝臓に感染し重い病気を引き起こす。肝炎の合併症は致命的にもなる。
- H I V，H B V，H C Vはいずれも同様の方法で伝染する。H I Vは主に性的行為を通じて伝染する。

[スポーツ中のH I V感染の危険性]

- ホッケーを行う環境の中でH I Vに感染する危険性は極めて低い。傷口からH I Vに血液感染する危険性は、他のどのタイプの感染方法と比べても非常に小さい。
- 危険性はごくわずかであるが、選手、トレーナー、コーチ、オフィシャルその他ボランティアを含む関係者全員がある程度の予防策を講じることが必要である。他のウイルス（肝炎）や感染症よりもH I Vへの対策が重要であり、それらは競技中の感染をなくするために適切なものでなければならない。

[一般的な予防策]

注：下記はあくまでも勧告であり、I I H F競技規則または規程に定めるものではない。

- 安全な性交や性交の節制はH I V感染を減らす上で大きな効果がある。
- 針，注射器，ピアス，タトゥー（刺青），鍼など皮膚を貫通する器具は殺菌する。使用は一回のみとし，共用はしないこと。
- カミソリ，歯ブラシ，つめ切りなど，皮膚を切る可能性のある私物は共用すべきではない。

[競技中の予防策]

- ケガによる出血からの感染を防ぐための第一の方法は，適切な防具を使用することである。
- 傷口の処置の方法は次のとおりである：
 - ⇒選手が負傷し出血している場合，出血が止まり，傷口を消毒して包帯などで覆うまでプレーに参加してはならない。
 - ⇒競技に戻る前に血液の付いた衣服を着替えなければならない。血液の付いた衣服は，再度使用する前にお湯で洗濯すること。
 - ⇒擦り傷，皮膚の損傷および発疹は医学専門家の診断を受け，感染性がないことが確認されるまで競技に戻ってはならない。傷口はしっかりと覆うこと。

〔オフィシャルの予防策〕

- 他人の血液または体液の付着に注意する。
- 他人の血液または体液が付着しないよう、防水性のグローブを着用する。
- グローブを外した後、または血液や体液に触れた後は、石けんで手を洗う。
- 皮膚の損傷や、切り傷または発疹があるオフィシャルは、日常的に保護カバーをつけること。

〔薬物とタバコ〕

- ホッケーは技術と俊敏性を競うゲームである。選手もオフィシャルも、不正な薬物または競技力を向上させる効果のある薬物を使用してはならない。これは、倫理、健康、法律および危機管理上の理由によるものである。
- 喫煙は、呼吸器や心臓の機能を低下させ、短期的にも長期的にもオフィシャルの運動能力に害を及ぼす。また、喫煙による健康への悪影響や危険性も良く知られているため、喫煙は勧められない。二次喫煙も有害であることから、オフィシャルの更衣室を禁煙とするよう勧告する。

< ま と め >

危機管理は継続的に行うものであり、活動から生じる身体的なケガや金銭的損害の危険性を見極め、査定し、管理し、排除または抑制する過程をいう。本章では、オフィシャルが危機管理とは何かを明確に理解し、ホッケーに関連する危険性の知識を高めるための情報を提供している。また、ホッケーの安全性と高潔さを保つために、継続して危機管理を行うことの必要性について述べた。

緊急時の活動計画 (例)

1. 担当者

- 応急処置またはホッケー・トレーナーの安全プログラムについて、最も知識のある人物。
- アリーナにある緊急時の用具を把握する。
- 医療専門家が到着するまで、緊急事態を管理する。
- ケガの状態を見極める。
- 医療専門家が到着するまで、負傷した選手を落ち着かせ元気づかせる。

2. 連絡係

- 緊急時の支援を依頼する。
- 緊急時の電話の場所を把握する。
- 緊急時の連絡先の電話番号リストを持っている。
- アリーナへの最短の道順を知っている。
- アリーナへの救急隊の道順を知っている。

3. 管理者

- 担当者およびケガをしている選手から、観客や他の選手を離れさせる。
- 担当者および救急隊が作業するための適切な部屋を確保する。
- 緊急時の活動計画について、アリーナ係員、オフィシャル、チームと協議する。
- 救急隊の通路を開けておく。
- 担当者から要請があった場合、高度な訓練を受けた医療担当者（医師、看護婦など）を探す。